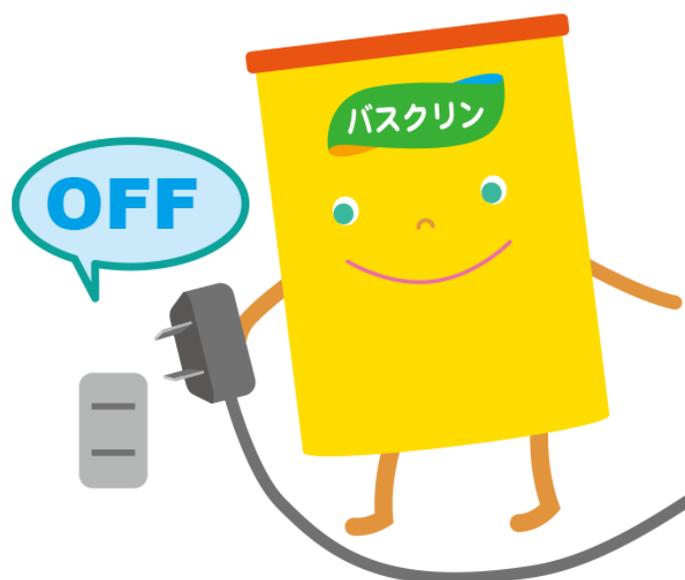


バスクリンのエコレポート

(2016年度の活動結果)



株式会社バスクリン

第8号

発行：2017年8月8日

目 次

1.会社概要	P-2
2.対象範囲	P-2
3.環境方針	P-4
4.環境目標とその実績		
4.1 環境目標	P-5
4.2 活動実績	P-6
5.2016年度の主要な環境活動計画	P-7
6.環境活動取組結果の評価	P-8
7.2017年1月以降の取組み内容	P-8
8.環境関連法規制への違反、訴訟等の有無	P-10
9.代表者による全体評価と見直し結果	P-11
10.環境経営推進体制		
・環境組織図	P-11
11.環境省より表彰されました	P-12
12.社内活動のトピックス	P-12
13.工場での取り組み	P-13
14.社外での取り組み	P-14

1. 会社概要

(1) 事業所及び代表者氏名

事業所名 : 株式会社バスクリン

代表者氏名 : 代表取締役社長 古賀 和則

(2) 所在地 : 〒102-0073

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

(3) 環境管理責任者氏名 : 総務部長 久保 康一

連絡先 T E L : 03-3511-5811 F A X : 03-3511-5820

(4) 事業概要 : 医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨の開発・製造・販売

(5) 事業規模 (2016年12月現在)

項目	単位	本社	静岡工場	つくば研究所	東日本営業所 東京支店	名古屋支店	大阪支店	福岡営業所	合計
従業員数	人	69	66	36	45	10	16	7	249
敷地面積	m ²	620	19,175	3,127	150	145	250	113	23,580
床面積	m ²	620	10,744	2,033	150	145	250	113	14,055

2. 対象範囲

① 認証・登録の業務

医薬部外品(入浴剤、育毛剤等)・化粧品・雑貨・医薬品・食品の開発・製造・販売

②認証・登録の範囲

- 本社 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
静岡工場 : 静岡県藤枝市谷稲葉 242-1
つくば研究所 : 茨城県つくば市東新井 29-9
東日本営業所 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
東京支店 : 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
名古屋支店 : 愛知県名古屋市東区葵 3-22-8 ニューザックビルディング 4F
大阪支店 : 大阪府大阪市淀川区宮原 2-14-10 中尾ロイヤルビル 4F
福岡営業所 : 福岡県福岡市中央区天神 4-2-20 天神幸ビル 7F

③活動レポートの対象期間及び発行日

対象期間 : 2016年1月から2016年12月

発行 : 2017年8月7日



3. 環境方針

環境方針

<基本理念>

株式会社バスクリンは、自然との共生を原点とする企業として、地球環境・地域環境に配慮し、健やかで心地よい生活を提供するため、下記の行動指針に基づき全社一丸となって自主的・積極的に、環境保全活動に取り組みます。

<行動指針>

1. 当社の事業活動において、開発・生産、販売・物流、使用、廃棄の各段階における環境負荷の低減に資する活動を積極的に進めるため、次の項目を重点管理として取り組みます。
 - 1) 環境配慮型製品の開発設計
 - 2) 環境配慮型製品の販売促進
 - 3) 電気・燃料の消費に伴う二酸化炭素排出量の削減
 - 4) 廃棄物の3R（減量、再使用、再利用）の推進
 - 5) 節水の推進
 - 6) 化学物質の削減
 - 7) グリーン購入の推進

これらの項目について環境目標・活動計画を定め、環境経営システムを確立し、継続的な改善と汚染の防止に努めます。

2. 環境関連法規、規制及び当社が同意するその他要求事項を遵守します。
3. 環境への取組みについて、環境活動レポートを作成し公表します。

制定日：2010年2月15日

改訂日：2011年4月1日

東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F

株式会社バスクリン

代表取締役社長 古賀 和則

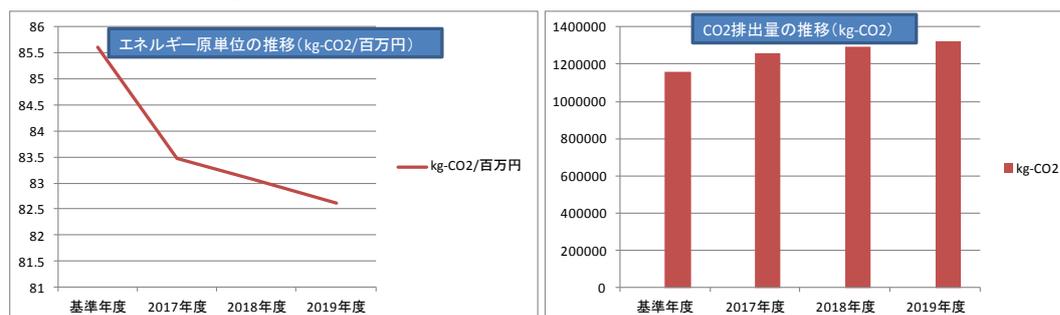
4. 環境目標とその実績

4.1 3カ年環境目標（2017年度～2019年度）

	項目 (部門)		単位	基準年度 (2012年度)	2017年度	2018年度	2019年度
1	二酸化炭素排出量 削減（全社） （電力、ガソリン から算出）	原単位	kg-CO2/百万円	85.61	83.47	83.05	82.62
		基準年度比	%	—	-2.5	-3.0	-3.5
		実量	t-CO2	1,158	1,260	1,291	1,324
	消費電力の削減	原単位	kwh/百万円	150.2	158.5	163.7	166.0
		基準年度比	%	—	5.5	9.0	10.5
		実量	kwh	2,031,434	2,393,500	2,546,000	2,659,000
	ガソリン使用量の 削減	原単位	L/百万円	8.853	6.391	5.228	4.625
		基準年度比	%	—	-27.8	-40.9	-47.8
		実量	L	119,695	96,500	81,300	74,100
2	産業廃棄物 排出量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	k g/百万円	87.72	85.90	85.50	85.00
		基準年度比	%	—	-2.0	-2.5	-3.0
		実量	t	1,186	1,298	1,330	1,363
3	排水量の削減 （静岡工場+ つくば研究所）	原単位	m/百万円	0.3484	0.3136	0.3118	0.3101
		基準年度比	%	—	-10.0	-10.5	-11.0
		実量	m	4,711	4,521	4,574	4,628
4	グリーン調達 （文房具） （全社）		グリーン購入率 （%）	— （基準が違いため比較できず）	75%	80%	80%
5	環境人材の育成 （全社）		工口検定合格者数	44名 累計186名	8名	5名	5名
6	環境配慮型製品の 開発設計 （つくば研究所）		—	—	包材重量減量化検 討	包材重量減量 化検討	包材重量減量 化検討

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh（2011年）を採用。

ガソリンは2.322kg-CO2/Lでの計算値を示した。



4.2 活動実績 (2016年度1月～12月)

	項目 (部門)	単位	2016年度 1月～12月 計画値	2016年度 1月～12月 実績値	評価	達成状況コメント
1	CO2 (売上原単位)	kg-CO2/百万円	83.90	88.54	×	原単位で5.5%オーバーした。電気量が工場の作業環境改善のため、除湿機 の能力アップ等で昨対5.2%増と売 上が対目標6.6%減したことが主要因 である。
	二酸化炭素 排出量削減 (全社)	kg-CO2	1,291,000	1,274,016		
	電力参考 (売上原単位)	kwh/百万円	154.6	165.5	×	原単位で7.1%オーバーした。工場の 作業環境改善のため、除湿機の能力 アップ等で昨対比5.2%増と売上が対 目標で6.6%減したことが主要因で ある。
	消費電力の 削減	kwh	2,380,000	2,380,650		
	ガソリン参考 (売上原単位)	L/百万円	7.286	7.279	○	原単位で0.1%の減となり目標を達成 した。ハイブリッドカーの導入拡大及 び社員の燃費意識の向上の結果、燃費 は前年度10.5Km/Lから今年度は 11.0Km/Lと5.7%改善。
	ガソリン使用量 の削減	L	112,200	104,735		
2	産廃参考 (売上原単位)	kg/百万円	85.97	73.88	○	原単位で19.6%の減となり目標を達成 した。※TCR活動の成果として、返品 が重量換算で17%減したことが主な要 因である。
	産業廃棄物排出 量の削減 (静岡工場+つ くば研究所)	t	1,323	1,063		
3	排水参考 (売上原単位)	m ³ /百万円	0.3415	0.2970	○	原単位で13.0%の減となり目標を達成 した。効率の良い生産計画の立案を行 い、また社員の節水意識が高まり、部 品洗浄作業の見直しの効果が出てきて いる。
	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	m ³	4,574	4,273		
4	環境配慮型製品 の開発設計 (つくば研究所)	-	-	-	○	育毛剤等で原料のパラベンフリー製品 を各種上市した。
5	販売促進物の廃 棄量低減 (本社)	千円	681	0	○	販売促進物数量の適正化を推進、販促 物の内製化の徹底、使用促進活動も積 極的に実施した。

購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力の0.433kg-CO2/kWh(2011年)を採用。

ガソリンは2.322kg-CO2/Lでの計算値を示した。

※TCR：活動全体最適の視点で仕事のあり方の本質をゼロベースで見直し、全てのコストを全社全方位で効率化する活動

価物数量推移 (リサイクル)

	(kg)					
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	対前年比
段ボール	116,190	118,237	120,511	127,497	128,224	100.6%
紙類	6,990	4,384	4,770	3,560	3,250	91.3%
プラスチック類	39,546	53,205	74,328	41,638	40,372	97.0%
金属類	13,660	21,123	16,457	13,333	12,646	94.8%

※紙類：雑誌、新聞紙、シュレッターゴミなど

プラスチック：ビニール袋、ストレッチフィルム、プラスチックコンテナ、パレットなど

金属類：ドラム缶、一斗缶、機械設備など

5. 2016年度の主要な環境活動計画（具体的取組内容）

	環境目標 (部門)	活動計画 - 具体施策 -
1	電気使用量の削減 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> ・日中、不要時の消灯、電源 OFF ・室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃） ・週3回ノー残業デーの徹底 ・非使用時の会議室空調停止
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・香料切替え時の洗浄廃液の抑制 ・分別による有価物への転換 ・フレコン袋のリユース再使用の推進 ・工場での適切な分別処理実施 ・試作規模を毎回精査
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の漏水点検の徹底 ・部品洗浄時の水使用削減 ・節水便器の導入 ・節水の呼び掛け ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置・機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の 廃棄量低減 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・販促物作成数量の適正化 ・適宜使用の促進 ・販促物の内製化

6. 環境活動の前年度結果との比較評価（2016年1月～12月の活動結果）

	項目 (部門)	(前年度同期比) 達成：○未達成：×	取り組み結果の評価コメント
1	電気使用量の削減 (全社)	×	日中、不要時の消灯、室温管理（冷房：28℃ 暖房：20℃）、週3回ノー残業デーの徹底、非使用時の会議室空調停止等は昨年に続き実施した。しかし工場の作業環境改善のため、除湿機的能力アップ等で昨対比5.2%増と売上が対目標で6.6%減したため、原単位で3.8%オーバーした。
2	産業廃棄物 排出量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	○	製品返品廃棄物が減少した為、原単位で9.7%の減となった。
3	排水量の削減 (静岡工場+ つくば研究所)	○	原単位で2.7%の減となった。効率の良い生産計画の立案を行い、また社員の節水意識が高まり、部品洗浄作業の見直しの効果が出てきている。
4	販売促進物の廃棄量低減（本社）	○	販売促進物数量の適正を推進、また販促物の内製化を行い、使用促進活動も積極的に実施した。

7. 2017年1月以降の取り組み内容

	環境目標 (部門)	2017年度の環境活動の取り組み内容
1	電気使用量の削減 (全社)	<p>特に夏場の消費電力削減の取り組み強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・室温管理（冷房:28℃ 暖房:20℃） ・非使用時の会議室の空調停止 ・使用していない電源 OFF ・週3日のノー残業デーの継続 ・日中の窓側蛍光灯の消灯 ・構内外灯の点灯時間短縮及び点灯本数の半減 ・帰宅時のパソコン電源のコンセント抜の徹底
2	産業廃棄物 排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> ・分別による有価物への転換 ・リユースの推進

	(静岡工場+つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・製造ロスの発生を少なくするための効率的な生産体制を強化 ・試作規模を毎回精査
3	排水量の削減 (静岡工場+つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な多面的節水行動 ・月一回の漏水点検 ・入浴剤評価実験の効率化検討 ・装置、機器洗浄における水使用量の削減
4	販売促進物の廃棄量低減(本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・年度末に在庫を残さないよう、営業部門への情報提供
5	環境配慮型製品の販売促進 (本社)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した詰め替え商品の販売促進を推進 ・使用促進 ・商談における啓発
6	グリーン購入の推進 (全社)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境対応マークの付いた文房具の購入を推進
7	化学物質の削減 (静岡工場+つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・化管法対象物質、主要化学物質の月次購入管理 ・有害廃液の適正な回収 ・有害試薬の削減 ・製剤ロスの削減
8	環境配慮型製品の開発設計 (つくば研究所)	<ul style="list-style-type: none"> ・環境負荷を考慮した処方設計と環境負荷値の計測 ・処方決定での化管法対象原料の確認・承認 ・化管法対象物質減量処方の検討 ・包材重量減量化検討



8. 環境関連法規制への違反、訴訟等の有無

	該当する環境関連法規制	本 社	静 岡	つ く ば	確認 は○	遵守 評価
1	廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃棄物処理法） ・ 収集運搬・処分先との委託契約の締結及び許可証 ・ マニフェスト伝票の発行及び返却期限管理 ・ 産業廃棄物交付票の状況報告（事業所ごと）	●	●	●	○	違反 無し
2	毒物及び劇物取締法 ・ 毒劇物法定表示と毒物保管量管理		●	●	○	違反 無し
3	消防法 ・ 危険物の保管管理（届出指定数量以下）		●	●	○	違反 無し
4	容器包装リサイクル法 ・ 特定事業者としての帳簿の備えと5年間保管 ・ 主務大臣への定期報告 ・ リサイクル費用の支払い	●			○	違反 無し

●は対象地区

当社に関わる環境関連法規等の遵守確認の結果、違反はありませんでした。

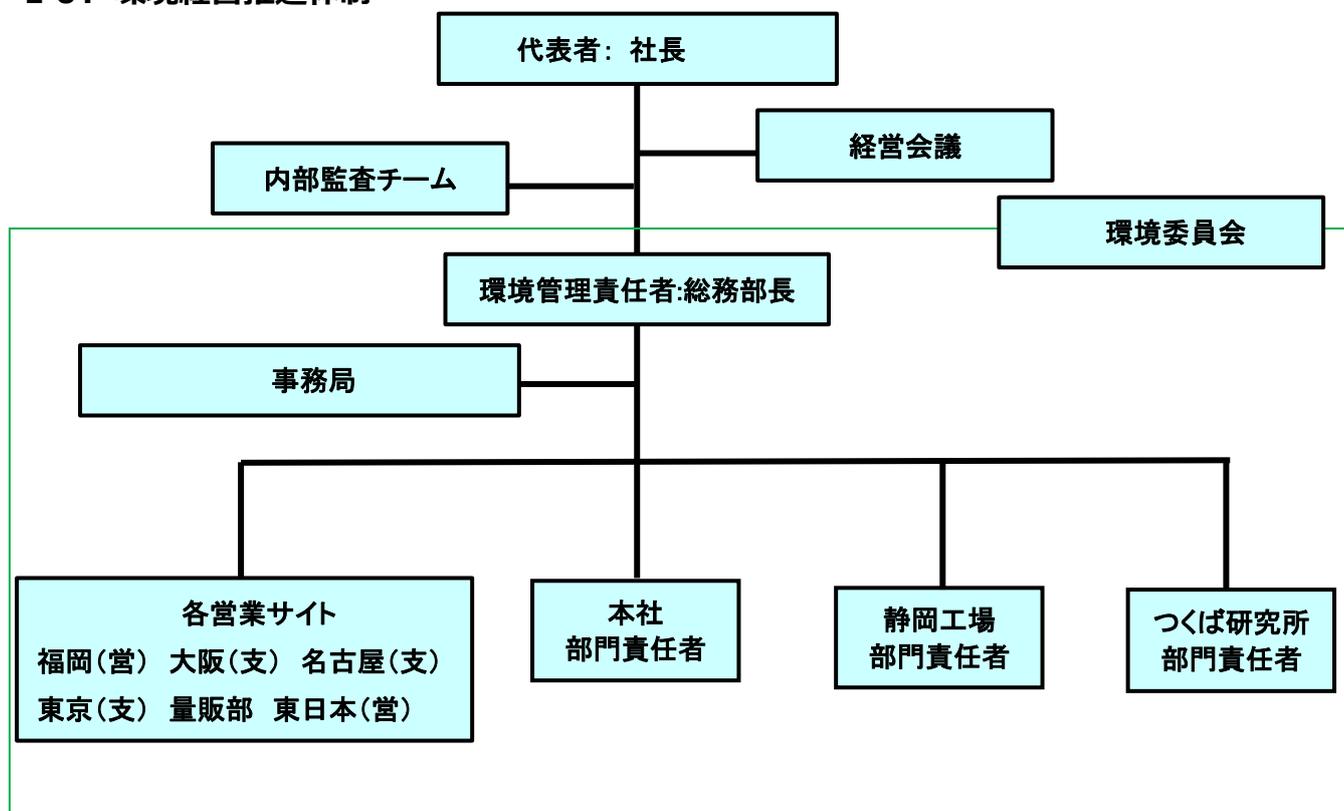
また、過去3年間にわたり関係機関からの指摘、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

9. 代表者による全体評価と見直し結果

代表者による全体評価と見直しを2017年5月15日に実施し、下表の結果となりました。

	項目	見直しの有無	評価コメント
1	環境方針の見直し	無	現時点での方針の見直しは不要とする。
2	環境目標	無	現時点で活動目標は追加しない。
3	環境活動計画	無	活動目標については中期計画と実績を踏まえて検討する。
4	環境経営システム的な指示	無	現時点での活動に問題は無いと判断する。
5	全体評価コメント		環境方針の主旨を理解し、適切な目標の設定と対策の実施が図られている。 年間を通じて、全社的活動を継続する。

10. 環境経営推進体制



1.1.環境省主催「環境 人づくり企業大賞2016」の優秀賞を受賞しました

環境省主催の「環境 人づくり企業大賞 2016」において、トイレタリー企業では初となる「環境 人づくり企業大賞」の優秀賞を受賞いたしました。



環境経営システム（EMS）にもとづく環境教育活動を継続して行い、その中心に「環境社会検定試験（eco 検定）※」の全社員合格を推奨し、さらに全社員の 98%が合格していること、社員の環境意識の高まりから、環境配慮型商品が生み出されていることが評価されました。

※環境社会検定試験（eco 検定）

複雑・多様化する環境問題を体系的に身に付けるための「環境教育の入門編」の検定試験であると当社は考えています。

【左から安井至 東大名誉教授 古賀和則社長】

1.2. 社内活動のトピックス

事業所周辺道路の清掃活動（本社オフィス）

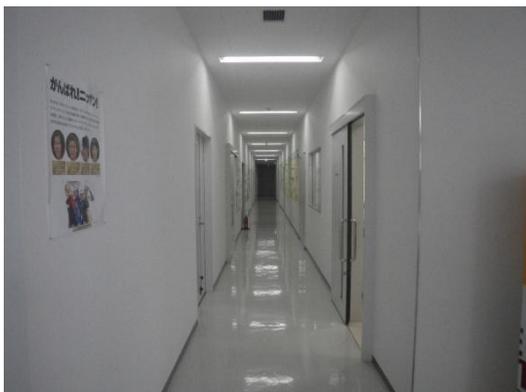


社会貢献活動の一環として、今年度も「千代田区一斉清掃の日」に清掃活動に参加いたしました。

「千代田区一斉清掃の日」は千代田区が年に2回（6月6日と11月6日）設定しており、当日は千代田区に属する町会や学校、事業所など300を超える団体が参加する清掃活動です。



廊下の Hf 蛍光灯を蛍光灯型 LED に変更（つくば研究所）



人感センサーで ON・OFF している為、すぐに球切れを起こす廊下の蛍光灯を、点灯寿命の長い蛍光灯型棒状 LED に変更しました。

副次的効果として電気使用量が約 64%削減されました。
(70W/台→25W/台 (45W(64%off)))

事業所周辺道路の清掃活動（つくば研究所）



地域貢献活動の一環として、毎週月曜日に事業所の回りの歩道・道路の清掃を行っています。

13. 工場での取り組み

静岡工場では CSR 活動の一環として工場見学を積極的に行っています。



工場生産ラインの説明



環境配慮型製品の説明

	見学件数	見学者数
2016年実績	54件	967名
累計（2011年4月～）	410件	6,479名

中学生工場体験学習



14. 社外での取り組み

小学校交流会への参加

11月26日、茨城県稲敷郡の小学校において『元気に毎日を過ごす入浴の効果を勉強しましょう』の講義を行いました。

講義の最後にはオリジナルの入浴剤を作成しました。



■環境活動レポートに関するお問い合わせ先
株式会社バスクリン 総務部CSR推進グループ
〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 8F
TEL: 03-3511-5811 FAX: 03-3511-5820
次回環境活動レポート発行予定：2018年6月 第9号